

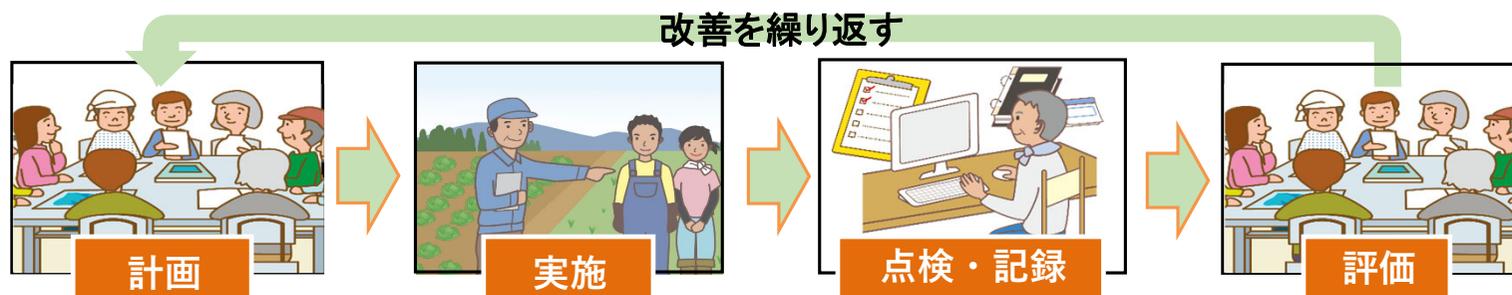
# GAPの必要性・有効性について

---

令和7年2月  
農林水産省  
農産局農業環境対策課

# GAP (ギャップ) とは

- GAP (Good Agricultural Practices : 農業生産工程管理) は、農業生産の各工程の**実施、記録、点検及び評価**を行うことによる**持続的な改善活動**のこと。
- 農林水産省では、「**食品安全**」、「**環境保全**」、「**労働安全**」、「**人権保護**」、「**農場経営管理**」の5分野を含むGAPを**国際水準GAP**と呼称し、ガイドラインを策定し普及を推進している。



## 国際水準GAPの5分野

### 食品安全

(取組事項の例)

- ・食品安全に係るリスク管理
- ・使用する水のリスク管理
- ・異物混入の防止
- ・農薬の適正使用と記録
- ・農産物取扱施設の衛生管理



集出荷作業における服装(マスク、布巾・手袋等の着用)のルール化

### 環境保全

(取組事項の例)

- ・環境負荷に係るリスク管理
- ・温室効果ガス削減の取組
- ・土づくりや施肥設計を通じた土壌管理
- ・総合的病害虫・雑草管理(IPM)の実施
- ・廃棄物の適正処理・利用



農業空容器は分別して処理

### 労働安全

(取組事項の例)

- ・労働安全に係るリスク管理
- ・機械・設備の点検・整備
- ・作業安全用の保護具の着用
- ・農場内の整理整頓、清掃
- ・農薬の適切な取扱と保管

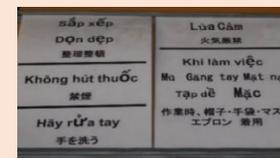


危険な作業はスイッチを止めてから行う(巻き込まれ防止)

### 人権保護

(取組事項の例)

- ・労働者への労働条件の提示と遵守
- ・家族間の十分な話し合いに基づく家族経営の実施
- ・技能実習生等の受入に係る環境整備



掲示物には外国人技能実習生の母国語を併記

### 農場経営管理

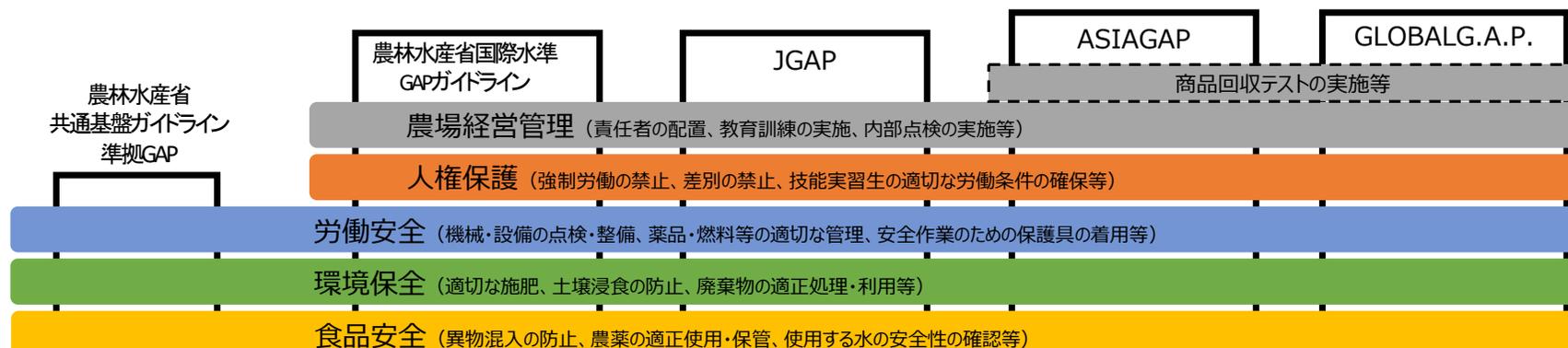
(取組事項の例)

- ・基本情報の整理
- ・業務毎の責任者の配置と農場ルールの策定
- ・トレーサビリティの確保と記録の作成・保存
- ・クレームへの対応手順の策定



ほ場等の情報を地図とともにパソコンで整理

# 国内におけるさまざまなGAP（各GAPの構成、特徴）



	農林水産省共通基盤ガイドライン準拠GAP	農林水産省国際水準GAPガイドライン	「GAP認証をとる」		
			JGAP	ASIAGAP	GLOBALG.A.P.
運営主体	都道府県等	農林水産省	一般財団法人日本GAP協会		FoodPLUS GmbH (ドイツ)
審査費用の目安 (個別認証の場合※1)	—	—	約10万円＋旅費	約15万円＋旅費	約44万円＋旅費
東京2020大会調達基準	△(都道府県の確認がある場合)	— (大会後策定)	○	○	○
大阪・関西万博調達基準	—	△(都道府県の確認がある場合)	○	○	○
GFSI※2承認	—	—	—	青果物・穀物・茶	青果物・水産養殖の一部※3
認証取得経営体数 (国内農畜産業)※4	—	—	4,792	1,935	753 (世界:192,998)

備考

農林水産省は、令和4年3月に国際水準GAPガイドラインを策定するとともに、共通基盤ガイドラインを廃止※5。都道府県に対して、都道府県GAPを存続する場合は、令和7年3月までを目途に、国際水準GAPガイドラインに準拠するよう基準の改定を求めている。

※1 個別認証のほか団体認証があり、団体認証では審査が全員ではなく抽出で行われ、団体事務局への審査も行われる。グループが大きくなるほど、個々の経営体の経費負担は縮小する。

※2 GFSI (Global Food Safety Initiative) とは、グローバルに展開する小売業者・食品製造業者等が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化に向け発足した組織 (CGF (The Consumer Goods Forum) の下部組織)。

※3 GLOBALG.A.P. の青果物には Smart と GFS の 2 つの規格が存在する。GFSI 規格と同等性確認されているのは GFS 規格である。穀物と茶については、市場からの要請が少ないため同等性確認は行われていない。

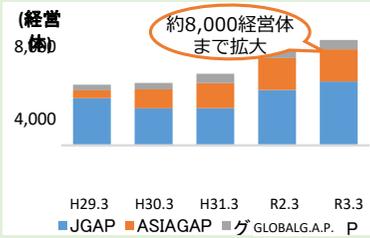
※4 JGAP 及び ASIAGAP は令和6年3月末現在、(一財) 日本GAP協会公表。GLOBALG.A.P. は令和5年12月末現在、(一社) GAP普及推進機構公表。複数の認証を取得している経営体については重複計上。

※5 共通基盤ガイドラインは廃止したが、共通基盤ガイドライン準拠の効果については令和7年3月まで有効。

# 我が国における国際水準GAPの推進方策（令和4年3月策定）の概要

## GAPを取り巻く情勢

- 東京オリパラ大会における食材の調達基準としてGAP認証等が採用されたことも契機に GAPの取組が全国で拡大



- SDGs (持続可能な開発目標) への世界的な関心が高まり、環境保全や人権保護等への配慮が重要な行動規範として浸透



- 輸出の拡大等で取引のグローバル化が進展し取引先は労働者の人権保護に配慮した原料調達を重視
- スマート農業の社会実装が現実のものとなり、農業への情報通信技術の導入が進展
- みどりの食料システム戦略に基づく生産力向上と持続性の両立を目指す施策の推進

今後、農業の**持続可能性を確保**するためには、食品安全、環境保全、労働安全のほか、

- 国際的に求められる**人権保護**への配慮
- 農場経営管理の実践とデータの利活用**を含めた**国際水準GAP**の取組が必要

## 基本方針

- 国際水準GAPに取り組むことで、農業者自らがSDGsに貢献できることを理解し、これを**実需者・消費者にも広く発信**。
- 国際水準GAPガイドラインの策定により**我が国共通の取組基準を明確**するとともに、**都道府県GAPの国際水準への引上げを進め**、国と都道府県が一体となって国際水準GAPの取組を推進。



## 推進に向けた具体的な取組

### ○国際水準GAPの取組内容の標準化

- 国際水準GAPガイドラインを策定し、我が国共通の取組基準を示す。
- ガイドラインに基づき取り組むべき標準的な内容を具体的に提示した解説書を策定。
- 新たにGAPを導入する農業者であっても、戸惑うことなく取組を**実践**

### ○OGAP指導體制の強化、面的取組の拡大

- コーチング技術やデータ活用に関する知識などを習得するためのGAP指導員向け研修を実施。
- JA等と連携した団体での取組を推進するため、GAP指導員の指導力向上や団体認証の取得支援を実施。
- 効果的な指導と面的にまとまった取組により、**産地での取組を拡大**

### ○GAPに取り組む農業者のメリットの明確化

- 取組データのデジタル化を促進し、簡易に記録・活用できるアプリなどの導入・利用拡大を図る。
- 農業者のSDGsや環境負荷低減等への貢献が見える化し、情報発信できる仕組みを構築。
- 経営改善や取引での利用など取組データの**活用の幅が広がる**

### ○実需者・消費者のGAPの認知度向上

- SDGsへの貢献が見える化し、実需者との取引や消費者への**アピールに活用**。
- GAPパートナーや関係省庁と連携して消費者に対して「GAP＝農業のSDGs」を**情報発信**。
- 実需者や消費者に取組が**評価され**、事業活動や**購買活動につながる**

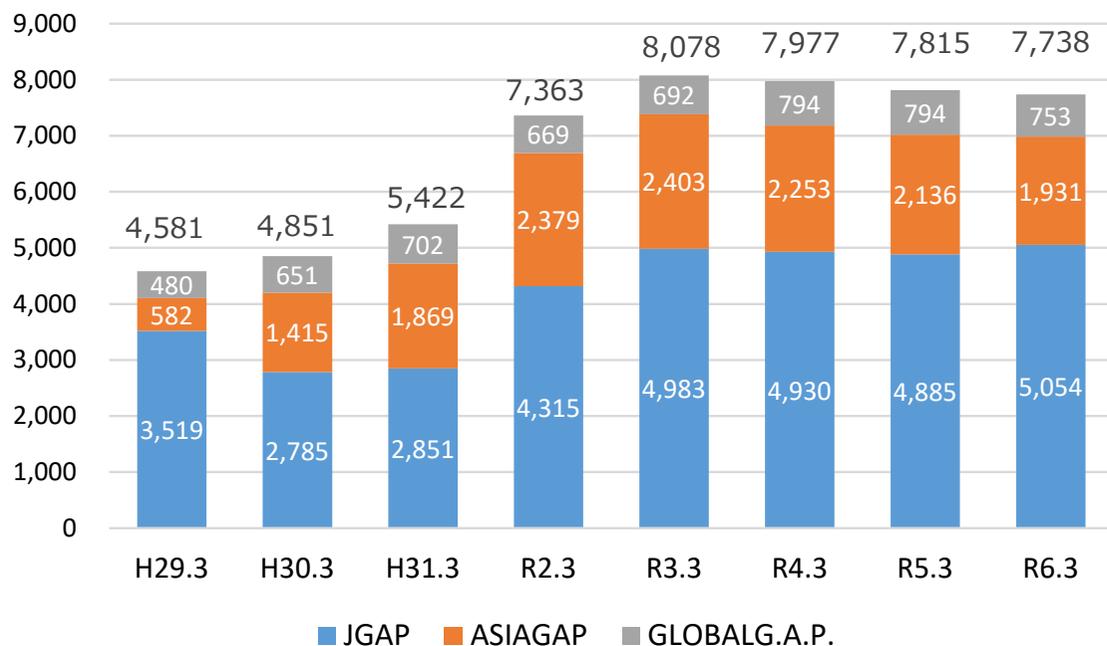
食料・農業・農村基本計画(令和2年3月閣議決定)に掲げる

**「令和12年までにほぼ全ての産地で国際水準GAPを実施」の実現**

# GAP認証の普及状況

➤ 国内における農畜産業のGAP認証取得経営体数は、JGAP、ASIAGAP、GLOBALG.A.P.で合計7,738経営体（令和6年3月末時点）

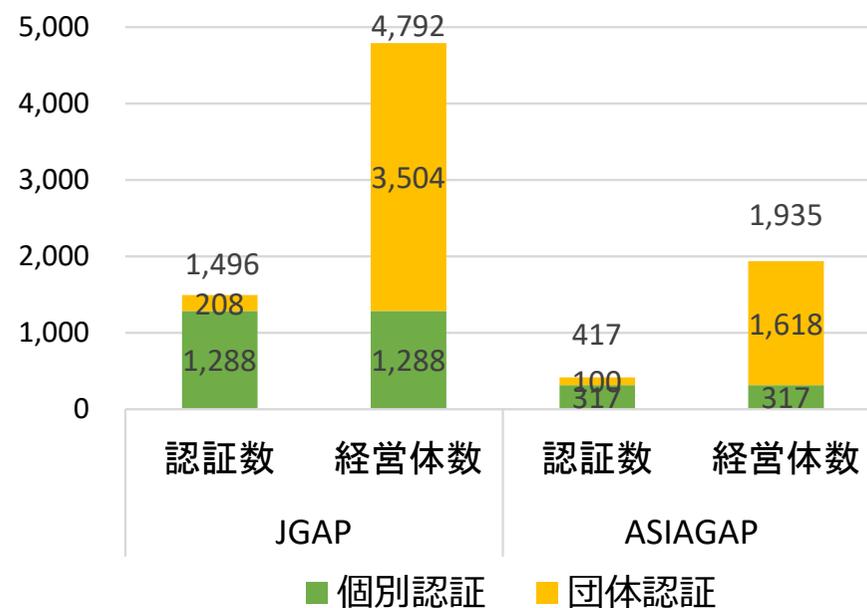
## GAP認証取得状況（経営体数）



農林水産省農業環境対策課調べ

- ※ 青果物、穀物、茶、畜産に係る認証経営体数（国内のみ）
- ※ 複数の認証を取得している経営体については重複計上。
- ※ GLOBALG.A.P.の経営体数について、H30.3はH29.12時点、R3.3はR2.12時点、R4.3はR3.12時点、R5.3はR4.12時点、R6.3はR5.12時点。

## JGAP・ASIAGAPにおける個別認証・団体認証の内訳



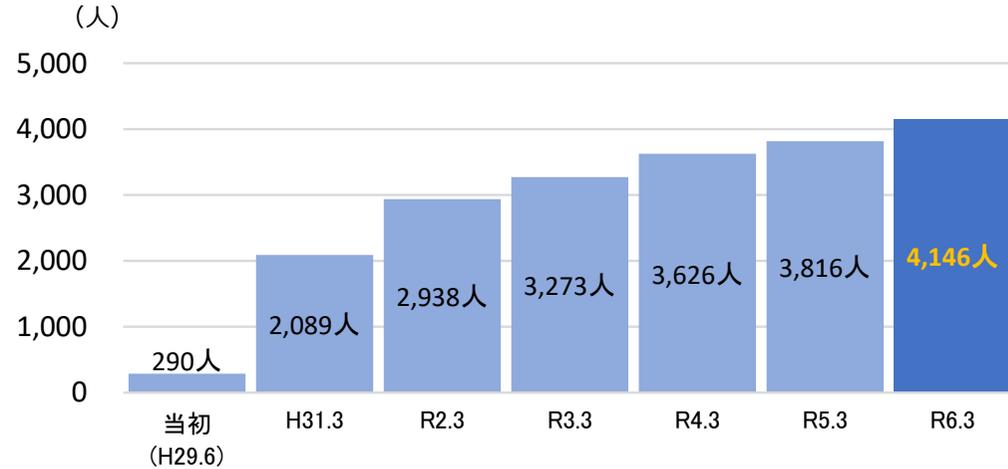
- ※ 令和6年3月時点
- ※ 青果物、穀物、茶に係る認証数及び認証経営体数（国内のみ）
- ※ 複数の認証を取得している経営体については重複計上

# GAP指導体制の強化と指導への支援

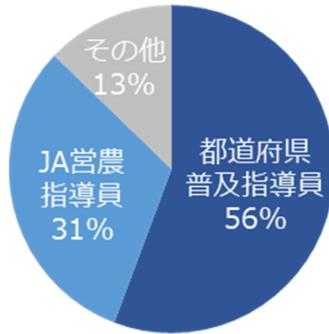
- 地域における、高い水準でGAPを指導できる者（指導員注）の育成を支援。指導員の数は、令和5年度末時点で、全国で4,146名。
- これらの指導員が農業者に国際水準GAPを普及する活動も支援しており、国際水準GAPを実施する農業者の数は増加している。

注：指導に必要な知識を習得するための研修を受講し、3件以上の指導実績がある者

## 全国における指導員数の推移



## 指導員の内訳



## 国際水準GAPを実施する農業者数

	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3
国際水準GAPを実施する経営体数※1	17,388	24,653	33,556	44,647
うち認証取得経営体数※2	8,078	7,977	7,815	7,738

※1 都道府県による指導等を受け国際水準GAPを実施する農業者数を集計

※2 関係団体に対する聞き取り数値

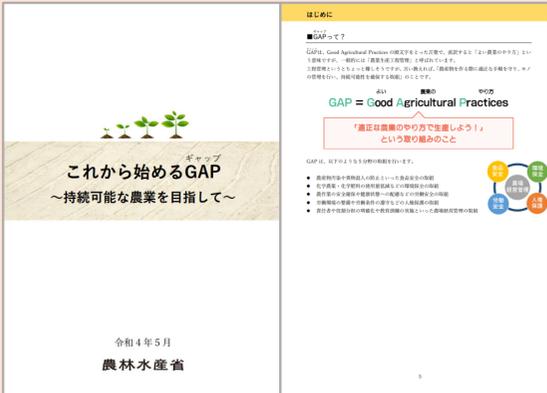
※ 農林水産省農業環境対策課調べ（令和5年度末時点、都道府県から聞き取り）

# 国際水準GAPの普及ツールの整備

➤ 農業者による自学自習や、指導員による指導活動をサポートするため、普及ツールを整備

## これから始めるGAP

➤ GAPとは何か、実践するメリット、国際水準GAPの5分野についてなど、GAPの基礎を学べる学習ツール。動画、テキスト、理解度テストから構成



URL: [https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/online\\_kensyu.html](https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/online_kensyu.html)

## 国際水準GAPガイドライン解説書

➤ 農場内の整理・整頓や、リスク管理をはじめ、国際水準GAPガイドラインを活用して国際水準GAPを実践する際のポイントを解説した資料



### 国際水準GAP ガイドライン 解説書

#### 3. 国際水準GAPに取り組む際のポイント

- (1) 基本情報の整理 (取扱事項 1)**
  - GAPでは、どのように農場を管理しているかを「見える化」します。その第一歩として、GAPで管理する範囲（＝適用範囲）を明確化するため、基本情報を整理します。
  - 基本情報は「農場の自己紹介」又は「会社案内」のようなもので、具体的には、出荷する商品とその仕様、生産工程、ほ場・施設・設備・機械等を含みます。
- (2) 農場内の整理・整頓 (取扱事項 第3・第4・第7・第8・第9・第12)**
  - 農場内の整理・整頓・清掃・清潔は、GAPの基本的な取組です。
  - 農場内のリスクが明確になり、作業や管理がしやすくなります。また、器具を探す時間が減ることによる効率アップや、資材在庫の適正管理による経費削減につながります。

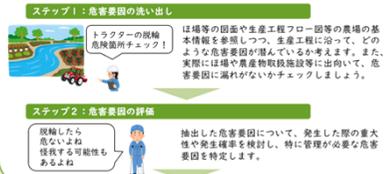
- (3) 日々の農作業の記録 (取扱事項 7 (継続))**
  - 農場を管理するために必要な記録の内容を整理しましょう。
  - 整理した項目について、記録を作成・保存することで、様々なメリットが得られます。記録の作成に写真や動画を活用することも有効です。
  - 外部からのクレームや農場のルール違反発生時の原因調査、農場の得意客に活用
  - 作業記録と農産物の出荷記録とを結びつけて管理し、トレーサビリティを確保

#### 農産物管理用アプリケーションソフトウェアを活用しましょう！

農作業の記録等が可能な、様々な農産物管理用アプリケーションソフトウェアが開発されています。これらのソフトウェアを使用することにより、記録の省力化や有効活用につながります。

農林水産省では、特に、国際水準GAPのためのデータ入出力等の機能が付与されたソフトウェアの開発を進めています。詳細は、「TRY-GAP」にて順次紹介していきます。

- (4) リスク管理 (取扱事項 8～10 (継続))**
  - リスク管理は、起こりうる問題や事故を洗い出し、それぞれの発生可能性や発生した場合の重大性を評価し、対応に応じて対策を立てる取組です。リスク管理の考え方は、GAPに取り組むにあたってとても重要なものです。
  - これらの取組事項は、食品安全・環境保全・労働安全の各分野におけるリスク管理の取組です。具体的には、例として以下の手順で進めます。



URL: [https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/gap\\_guidelines/index.html](https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/gap_guidelines/index.html)

## 国際水準GAPガイドライン 指導マニュアル

➤ 国際水準GAPガイドラインに基づいて国際水準GAPの指導を行う際のヒント集。各取組事項の解説や、具体例と想定される対策等を含む。

令和4年

※ 農業者の活用も可能

区分	農業生産工程段階	品目	分野
I経営体制全体	全般	共通	農場経営管理

番号	取組事項
1	農場経営に必要な基本情報（栽培品目名、ほ場（きのこ類の場合は、ほだ場。以下、同じ）や施設の名称・所在地等）を明確にし、整理し、必要に応じて文書化。

**A. 解説**

GAPは、どのように農場を管理しているかを「見える化」し、管理を適切に実践して持続可能な農業経営を行うとともに、その内容を文書化や記録することにより顧客や地域住民に説明責任を果たすための道具です。また、農場のルールを文書化することで、従業員や教育・訓練を確実なものとし、その「見える化」の第一歩として、農場の基本的な情報を把握し、GAPで管理する範囲・適用範囲を明確にします。適用範囲には、出荷する商品（品目）とその仕様、生産工程（外部委託を含む）、ほ場・倉庫・作業所等の施設・設備・器具等の情報を含みます。これらの情報は、商品仕様書（意図したユーザー、喫食方法、出荷形態等）、生産工程フロー図（栽培、収穫、農産物取扱等）、ほ場地図や施設のレイアウト等を作成することで把握し、明確にします。これらの情報を十分に把握することにより、生産環境や生産工程に潜む食品安全、環境保全、労働安全に関する様々なリスクを特定することができ、そのリスクの大きさの評価とリスクに応じた農場管理のルールの確立が可能となります。

**B. 具体例と想定される対策**

番号	【具体例】	【想定される対策】
1-1	ほ場・施設のリストの不備によりリスク評価対象に漏れが生じ、リスク評価ができていない事故が発生。	現場と照合しながらほ場・施設のリストを作成する。栽培の準備から出荷完了まで、時系列の順で使用する場所を把握し、ほ場・施設のリストを作成する。
1-2	ほ場・施設の地図の不備により、周囲の状況の把握が不十分になり、事故が発生。	ほ場・施設のリストに基づき、全てのほ場・施設の地図を作成する。地図により、周辺の状況を把握する。
1-3	農産物の搬送経路を把握できず、汚染リスクの検討に漏れが生じ、汚染事故が発生。	ほ場から農産物取扱施設までの搬送経路を明らかにする。異なるような汚染リスクがある場合は、把握する。

国際水準 GAP ガイドライン (指導マニュアル) Ver.1.0

農林水産省農産物安全管理課

URL: [https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/gap\\_guidelines/index.html](https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/gap_guidelines/index.html)

# 国際水準GAPを実践する農業者と実需者のマッチング促進事業

- ▶ 国際水準GAPに取り組む農業者と実需者を結ぶマッチングサイトを令和6年3月に開設。
- ▶ 今後、実需者や農業者への更なる周知を図ることで、GAP農産物の取引量拡大を目指す。



国際水準GAPに取り組む農業者と実需者の新たな取引関係の構築や維持をサポートします

GAP農業者検索

GAP農業者登録

---

GAP農業者検索

販売作目名

選択中:

地域

選択中:

提供可能時期  1月  2月  3月  4月  5月  6月  7月  8月  9月  10月  11月  12月

GAP種類  JGAP  ASIAGAP  GLOBALG.A.P.  都道府県GAP

社名・個人名

キーワード  ※品種名等

認証を取得しているGAP農産物に関する情報を登録することで、GAPの取組を実需者にPRできる！登録料は無料！

調達したいGAP農産物に関する情報を入力することで、該当する農産物を簡単に検索できる！



農業者



実需者



マッチング

農業者と実需者との関係構築を促進

販売作目名  
地域  
提供可能時期  
GAP種類  
等を入力

## 検索結果例

会社情報

所在地

社名・個人名

販売担当部署

担当者

TEL

E-mail

URL、SNS等

問い合わせ方法 TEL、メール

備考 掲載状況、納品票などを利用して農薬使用を通常の半分以下に抑えて栽培を行っています。また品質についてもお客様より高い評価をいただいております。

---

取り扱う作目

販売作目名

提供可能時期  1月  2月  3月  4月  5月  6月  11月  12月

提供可能出荷量 年間生産量 70~80t

※2024年は11月中旬より出荷開始予定(～2025年6月30日)

認証種類  JGAP

キーワード

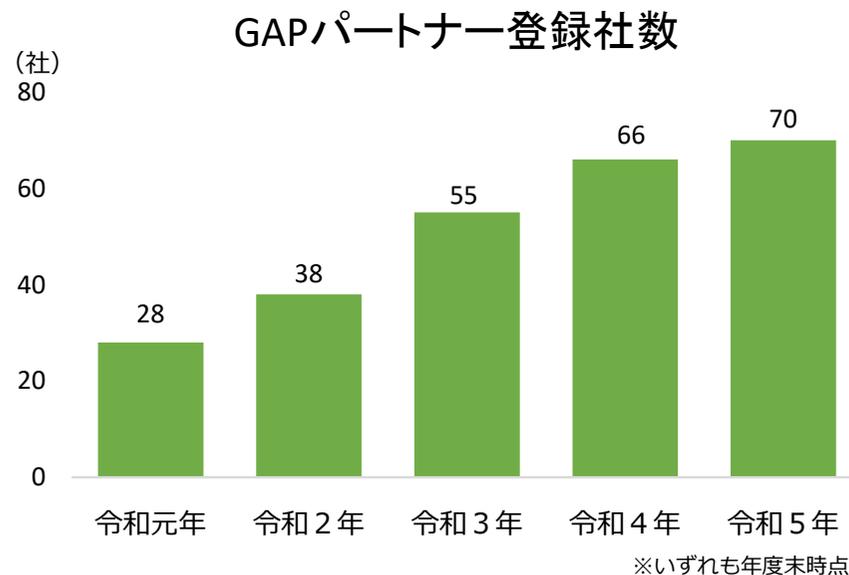
HP抜粋「GAP農業者と実需者を結ぶGAPマッチングサイト」

<https://www.jadea.org/gapmatching/>



# GAP認証農産物に関心を有する実需者

➤ 農林水産省は、GAP認証農産物を取り扱う意向を有する実需者を「GAPパートナー」として募集し、Webサイトに掲載。実需者・消費者の理解促進・需要喚起のため、実需者と産地の関係構築を推進（令和6年8月末時点：71社）



「GAPパートナー」の取組やお問い合わせ先等の詳細情報については、GAP情報発信サイト「Goodな農業！GAP-info」に掲載しております。



Goodな農業！GAP-info

# 大阪・関西万博への対応について

- ▶ 令和5年7月に公表された「持続可能性に配慮した調達コード(第2版)」のうち「持続可能性に配慮した農産物の調達基準」では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下、「東京2020大会」)の調達基準と同様、主としてGAP認証農産物が調達基準の要件への適合度の高い農産物として位置付けられている。
- ▶ 大阪・関西万博の来場想定者数は約2,820万人、期間は2025年4月13日～10月13日の184日間と、東京2020大会よりも規模が大きく、期間が長いため、必要となる食材量も東京2020大会よりも多いと見込まれる。
- ▶ 大阪・関西万博での国産農産物の調達割合を少しでも高めるため、大阪・関西万博向けのGAP認証農産物等の産地の掘り起こしを積極的に進める必要がある。

## 大阪・関西万博における農産物の調達基準(概要)

### 対象

博覧会協会、ライセンサー<sup>注1</sup>及びパビリオン運営主体等<sup>注2</sup>が提供する飲食サービスに使用される、農産物の生鮮食品及び農産物を主要な原材料とする加工食品

注1：公式ライセンス商品を製造・販売等する事業者  
注2：各国政府、国際機関、企業、地方自治体等

### 要件

以下の点について、生産国の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること

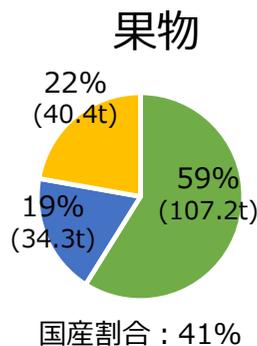
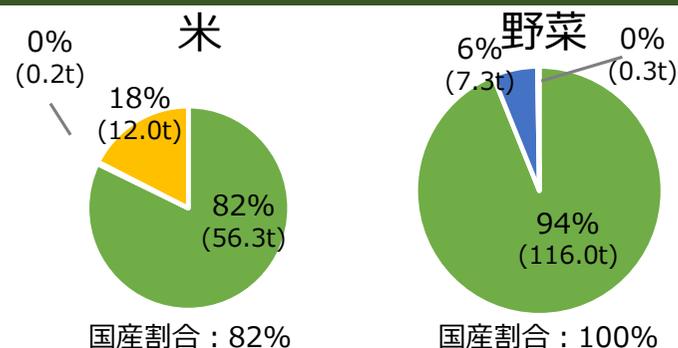
1. 食品安全の確保
2. 周辺環境や生態系と調和のとれた農業生産活動の確保
3. 作業者の労働安全の確保
4. 作業者の人権保護の確保

### 要件への適合度が高い農産物

1. GLOBALG.A.P.、ASIAGAP、JGAP、又は博覧会協会が認める認証スキームによる認証を受けて生産された農産物
2. 1の農産物以外を必要とする場合は、国際水準GAPガイドラインに準拠したGAPに基づき生産され、公的機関による第三者の確認を受けて生産された農産物
3. 1、2の農産物以外を必要とする場合は、環境負荷の低減に取り組むことについて公的機関等による第三者の確認を受けて生産された農産物(有機農業により生産された農産物も認める。)

※持続可能性に配慮した調達コード(第2版)(令和5年7月31日公表)を基に農林水産省農産物環境対策GAP推進グループが作成

## (参考) 東京2020大会での農産物の調達状況



※2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の公表情報に基づき農林水産省にて整理。

## GAP認証農産物を調達基準の要件への適合度の高い農産物として位置付けている大会等

### 愛知・名古屋2026大会

大会期間  
2026年9月19日（土）～10月4日（日）

メイン会場  
名古屋市瑞穂公園陸上競技場（愛知県名古屋市）

選手団（選手・チーム役員）  
最大15,000人



出典：愛知・名古屋2026大会HP

### 2027年国際園芸博覧会

大会期間  
2027年3月19日（金）～9月26日（日）

開催場所  
旧上瀬谷通信施設（神奈川県横浜市）

参加者数  
1,500万人

出典：公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会HP



## 農産物の調達基準（2027年国際園芸博覧会 持続可能性に配慮した調達コード）

### 要件

- (1) **食材の安全**を確保するため、農産物の生産に当たり、生産される国又は地域における関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- (2) **周辺環境や生態系に配慮した農業生産活動**を確保するため、農産物の生産に当たり、生産される国又は地域における関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- (3) **作業者の労働安全**を確保するため、農産物の生産に当たり、生産される国又は地域における関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- (4) **作業者の人権保護**を確保するため、農産物の生産に当たり、生産される国又は地域における関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。

### 要件への適合度の高い農産物

- ・GLOBALG.A.P.、ASIAGAP、又は JGAP 認証を受けている
- ・農林水産省作成の「国際水準 GAP ガイドライン」に準拠した GAP に基づき生産され、都道府県等公的機関による第三者の確認を受けている